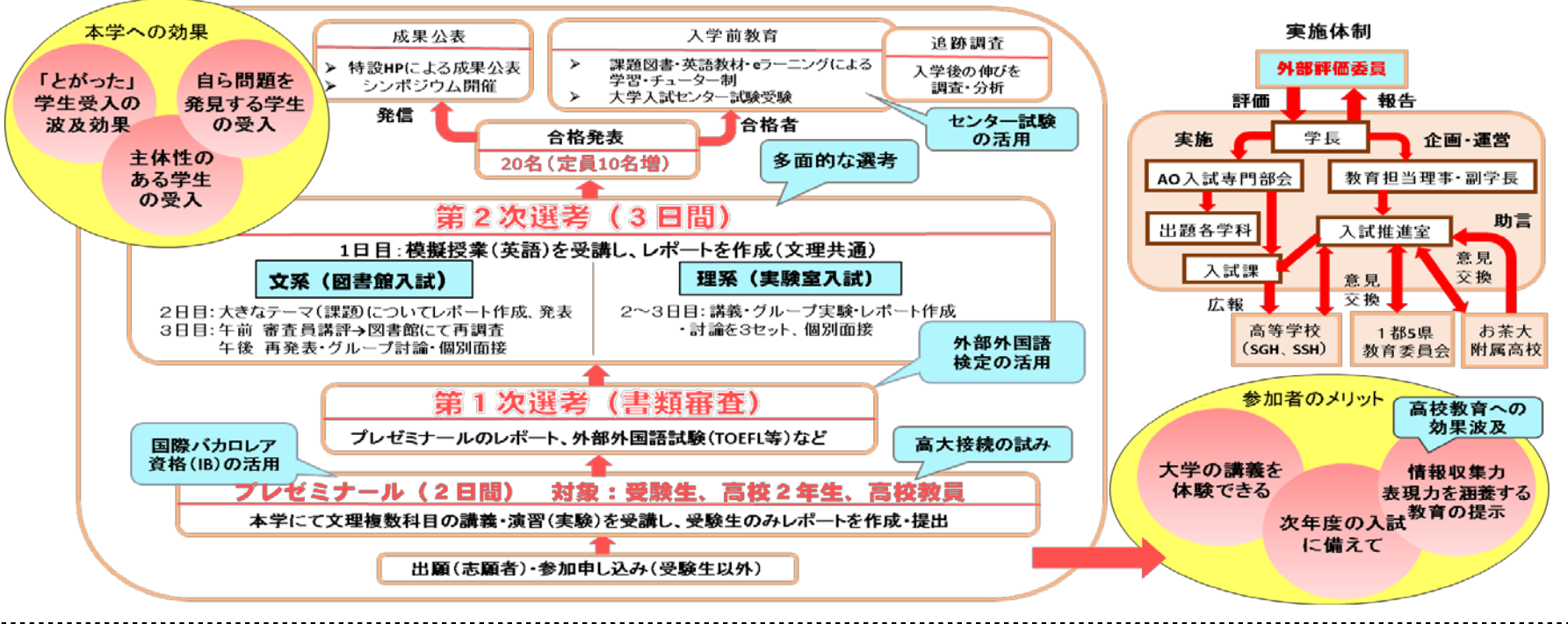


大学等名：お茶の水女子大学
テーマ：テーマⅢ（入試改革）

取り組み概要

本学の取組は、特別入試、とくに現在のAO入試を抜本的に改革し、多面的・総合的に志願者の意欲、適性、能力、基礎学力を見極める入試を構築することを目的とする。募集定員を現在から倍増させ、全学で20人規模とし、丁寧で手間をかけた本学独自の新フンボルト入試を実施する。高大接続の要素をもつプレゼミナールおよび3日間にわたる本試験を通じて、基礎学力を担保しつつ受験生のもつ潜在力(ポテンシャル)を見極める。大学入学時に知的ピークを迎える学生ではなく、入学後の学修のなかで能力を大きく伸ばし、大学院に進学し社会に出てからリーダーとして飛躍しうるような「伸びしろ」のある学生を選抜する。

お茶大発 新型AO入試(新フンボルト入試)



【事業の成果】

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
募集定員	10名(現行AO)		20名(新フンボルト入試)		
プレゼミナール参加高校教員数	-	30名	40名	45名	50名
プレゼミナール本入試	-	実施(2日間)	4日ないし5日間(新フンボルト入試)		
	2日間(現行AO)				

→

- 多面的な能力評価を通じて「とがった」学生を受け入れることにより、学生の多様性が高まり、大学教育全体の活性化が期待される。
- プレゼミナールにより、高校教育への効果波及が見込まれる。
- 本入試改革の成果を一般入試の一部に応用可能である。